

地産地消で食育

黒潮町農業委員会の取り組み



食育活動のきっかけ

『地産地消』みなさんも一度は耳にしたことのある言葉だと思います。簡単に説明すると「地元の産物を地元で消費する」という意味です。

地元の産物は、その土地環境で生きる人間に最も適した食べ物とも言われています。輸入食品やレトルト食品などであふれた現代の生活環境の中、『食』が見直され始め、町内でも、地域の産物にもっと目を向けてもらおうとする取り組みが各地域で行われています。

そのひとつ、農業委員会の食育活動をご紹介します。

農業委員会では、学校の子どもたちに、地元の豊富な産物を紹介するとともに食べることの大切さを知ってもらおうと、町内の小学校を巡回して調理実習などの活動を行っています。

これは、平成14年に大方地域内で女性の農業委員が中心となって始められた取り組みで、現在は元農業委員の方々がJA女性部、男性の農業委員も加わり継続されています。この計画を発案した秋田かよ子さん(元農業委員)は「当時は女性の農業委員というのは県内でも大変珍しかったよ

うです。私は社会教育委員などで学校との関わらせていただく機会もあったので、女性として、農業委員として子どもたちに何ができるかを考えたとき、一番に『食育』が思いつきました」と振り返ります。農業委員のOBとしてこの取り組みに参加するだけでなく、一農家としても畑の提供や菜園指導などで入野小学校と関わりを深めています。

地元の食材たっぷり

今回取材させていただいた三浦小学校では、田野浦・出口地区の「かじめ」や「ちりめんじゃこ」がたっぷり入ったサラダ、サツマイモがたくさん使用された芋ようかん、南郷小学校では子どもたちが昨年収穫したお米で作るポン菓子やおせんべいがメニューに組み込まれていました。

それぞれの小学校ごとに考えられた農業委員の「特別メニュー」には、地元のものや子どもたちの愛着ある食材がたくさん使用されています。また、野菜のほとんどが委員の家庭から持ち寄られており、その種類の多さには驚くほどでした。

たくさんの気持ち

参加するスタッフの方々にも子どもたちへの思いを聞いてみると「食育の他にも、農業委員会がどんな仕事をしているのか、今の黒潮町の農業のこと、農業者の高齢化や担い手がいないという問題など知って欲しいことはたくさんあります。農業に興味を持って、将来町内で就農してくれたらどんなに嬉しいか」と農業委員会会長の井上道明さん、JA女性部から参加している小谷美美子さんは「子どもたちには、いつもごはんを作ってくれている親のありがたさを知って欲しい。親も、何でもしてあげるのでなく、たまにはいっしょに料理する、経験



させてあげることがいいのではないかと思います」と、この活動に参加する方々みんなが色々な思いを持って子どもたちと交流していることが伝わってきます。

町内全ての小学校へ

約3年かけて、大方地域の小学校を一巡させたこの活動ですが、今後は佐賀地域も含め町内全ての小学校で食育活動をしていきたいとのこと。

井上会長からは「受け入れてくださる小学校があればぜひ一報いただきたい」ということでした。

農業委員会は地元でとれた食材で、いっしょに料理をすることが子どもたちの家庭で広まってほしいと強く願っています。

◆農業委員会の食育活動に関するお問い合わせ
農業委員会事務局

☎ 43-1888 (直通)

